

## 令和4年度 学校総合評価

### 今年度の重点目標に対する総合評価

本校の役割は、不登校経験者の学び直し、障害や困難を抱える生徒への特別な支援、外国籍等の生徒への支援など多岐にわたっている。そうした生徒一人一人に対して、先進的な教育手法による基礎学力の保証はもとより、社会で自立して自己実現を図る力を育むことが重要となっている。そのため今年度は5つの重点課題に取り組んだ。

- (1) 「学習活動」については、単位修得率は通信科目では上昇したが定時科目で下降したため目標を達成することができなかった。原因の一つとして、退学者(転学者含む)が4名増加したことが考えられる。また、生徒の学習実態については、「学習時間調査」や面談・個別指導の実施により把握した。家庭学習時間の平均は昨年と同程度であったが、学習時間が0分の生徒数は減少した。コロナ禍の影響も考えられるが、生徒の実態を踏まえた授業の工夫や進路目標の明確化による内発的な動機付け等、生徒の主体的学習活動を促す取り組みを継続する必要がある。
- (2) 「学校生活」については、昨年度に引き続き「あいさつ」の定着と遅刻の防止について取り組んだが、目標値に到達せず、指導を継続する必要がある。生徒生活指導委員会は毎学期計画的に開催し、時代に即した校則となるよう見直しに取り組むことができた。生徒の特性や健康状態等について、情報を収集し共有することで、学校生活や授業での支援の方法について検討し、効果的に実施した。また、教育相談や特別支援教育に関する研修会を実施することで、教員の理解を深めた。今後も生徒が安心して学校生活を送り、自立した人間として他者と共によりよく生きる力を育むことができる学校作りに努めたい。
- (3) 「進路支援」については、今年度の目標としていた進路決定率 90%以上をクリアするために、受験対策の個別指導に力を入れて目標を達成することができた。また、キャリアパスポートの活用を推進して、計画的・継続的なキャリア教育の実施に努めたが、上手く活用することによって主体的な進路決定を達成した生徒が過半数を占めた反面、取り組みが不十分な生徒も存在した。生徒の進路希望が多様化してきており、様々な機会に進路情報を提供し、家庭と連携しながら進路選択のミスマッチを防ぐことが求められる。
- (4) 「特別活動」については、どの行事も生徒の満足度は高く、彼らが大きく成長していく一助となっている。しかし課題として各行事の参加率を高めることがあり、そのために生徒一人一人が各行事の企画や運営に積極的に関わる手立てを考えていくことが重要である。図書の出率については、残念ながら目標値を下回った。生徒の実態として、スマートフォンの過度な使用や、書籍に触れることを避ける傾向があるが、学校関係者から寄せられたご意見も参考にして、読書習慣の定着に取り組みたい。図書室では休憩時間等に静かに自習している者の姿が多くみられ、学校における生徒の大切な居場所となっている。
- (5) 「各種検定試験への取り組み」については、資格取得という成功体験をすることにより専門学科の学習に自信をもち、学習意欲の向上につながっている。ただ、達成目標の設定が実態とそぐわない面も出てきているため、より適切な目標設定とそれを達成するための努力を継続したい。

### 次年度へ向けての課題と方策

本校では、多様な生徒に対応し、授業改善やICT教育の推進、通級指導による個別指導・個別支援、SC・SSWを活用した教育相談等の一層の充実を図り、学習意欲の向上や集団活動への積極的な参加を目指して、生徒一人一人の自己実現に資するよう、教職員間のみならず、保護者・地域・外部機関との連携も深めながら、個に応じたきめ細かい教育を実践していきたい。

学校アクションプラン

令和4年度 志貴野高校アクションプラン - 1 -

重点項目	学習活動	
重点課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・単位修得率の向上（学習習慣の確立と基礎学力の定着を図る）</li> <li>・生徒の学習実態の把握</li> </ul>	
現状	<ul style="list-style-type: none"> <li>・安易に授業を休む生徒が見受けられる。</li> <li>・学習意欲が低く、学習習慣が身につけていない生徒がみられる。</li> <li>・学力差が生じており、一斉授業が難しいことがある。</li> </ul>	
達成目標	①単位修得率	②「学習時間調査」の実施
	90%以上	2回（前期1回、後期1回）
方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「学習・生活の手引き」（授業の記録）を生徒一人一人に記録させる。</li> <li>・生徒が自らの授業の記録を確認することによって、授業に参加することの意義を知る。</li> <li>・生徒が利用しやすい『受講ガイド』を作成し、履修指導に生かす。</li> <li>・生徒の学力、興味・関心などを把握し、授業に対する興味・関心を引き出す。そこから、生徒の主體的・対話的な学びを促し、出席率、単位修得率の向上につなげる。</li> <li>・生徒の実態を、より正確に把握するために面接や個別指導を充実する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒自身にも自らの学習時間・態度を見つめ直す機会として、「学習時間調査」を年2回実施し、結果をフィードバックする。期末考査の期間を含めることで、考査に対する取り組みの振り返りを促す。</li> <li>・家庭での学習時間が充実するように、教材、授業などを工夫する。</li> </ul>
達成度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・単位修得率 86.2%（前期）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1回実施（前期）</li> </ul>
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・単位修得率は、昨年同期と比較し、定時授業では減少したが、通信授業では増加した。</li> <li>・昨年同期と比較し、退学者（転学者含む）が4名増えたことも単位修得率に影響している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・期末考査期間を含めた調査を継続的に行い、生徒の学習時間傾向の把握に努めた。</li> <li>・集計データを職員で共有し、生徒の実態把握のために利用した。</li> </ul>
評価	<p>B</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年同期と比較すると2.2ポイント減少した。</li> </ul>	<p>B</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年同期より全体平均で0.1分減少したが、0分の生徒は14人減少した。</li> </ul>
学校関係者の意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・単位修得率の低下防止や生徒負担軽減のために、履修取り消し制度の導入を検討してはどうか。</li> <li>・新潟県の高校のホームページは同じプラットフォームで情報入力がなされており、親にとっても教育者にとっても高校間比較がしやすくなっている。一方、富山県では各高校の先生方の努力が中学生に十分伝わっていないように思う。先生方の努力や熱意が中学生とその保護者に伝わる仕組みがあると良い。</li> <li>・志貴野高校の先生方は細かなアフターケア等、対応が素晴らしい。生徒も良いものを持っている。更に良い学校になってほしいので学校の魅力をかみ砕いてアピールすれば良い。</li> </ul>	
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・単位修得を通して、単位制高校における自己管理の意義や大切さを身に付けさせる工夫が必要である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進路実現に向け、授業時間以外の学習時間の必要性和重要性を根気強く伝えていく工夫が必要である。</li> </ul>

評価基準

A：達成した

B：ほぼ達成した

C：どちらかという達成できていない

D：ほとんど達成できなかった

重点項目	学校生活				
重点課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 基本的生活習慣の確立及び自己管理能力の育成</li> <li>・ 心身の健康の保持増進に主体的に取り組む力の育成</li> </ul>				
現状	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ネットゲームやSNS、アルバイトなどにより朝起きられない生徒がいる。</li> <li>・ 自ら挨拶を交わすことのできる生徒が少ない。</li> <li>・ 発達障害のある生徒や不登校経験者など、生徒が多様化している。</li> <li>・ 心身の不調から、登校や授業への参加が困難になっている生徒が毎年みられる。</li> <li>・ 自らの生活を振り返り、健康な学校生活を送るために、主体的に改善しようとする意欲に乏しい様子がみられる。</li> <li>・ 心身の健康について、生徒が主体的に考えるための研修会や保健行事、ホームルーム活動等の活躍の場が必要である。</li> </ul>				
達成目標	①学校生活アンケート		②心身の健康について考える特別活動（委員会、ホームルーム活動）や研修会の実施と参加生徒の健康に対する意識の向上		
	挨拶・遅刻について 良好またはおおむね良好 70%以上		「意識が向上した」80%以上		
方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 毎月「行動・身だしなみ」の自己チェックを行い、前月と現在を比較し自己のあるべき姿について考えさせる。また、遅刻欠席が多い生徒に対して生活習慣を見直させる。</li> <li>・ 生徒校風委員の主体的な「あいさつ運動」を通して、挨拶の習慣を身につけさせる。</li> <li>・ 保護者等の協力を得ながら、安全なネットの利用や基本的生活習慣の確立、規範意識の向上を促す。</li> <li>・ 生徒の多様化と社会の実情に照らし合わせ、生徒の指導方法を工夫する。</li> </ul>				
達成度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ あいさつをする 52.1%（昨年 52.9%）</li> <li>・ 遅刻をしない 61.6%（昨年 62.2%）</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 健康的な生活への意識の向上 93.9%</li> </ul>		
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 生徒校風委員による「あいさつ運動」を13回実施した。</li> <li>・ 遅刻防止等を目的に、各学期初めに職員による校内巡視を行った。</li> <li>・ 保護者会で長期休業中の生徒心得を配付し高校生としての適切な生活のしかたについて共通理解を図るとともに、家庭での協力を仰いだ。</li> <li>・ 個々の生徒の特性や状況を年次や保健・教育相談部と連携・把握し、指導に活かしている。</li> </ul>				
評価	C	・ あいさつの定着・遅刻の防止については、ともに目標値に届かなかった。		A	・ 心身の健康についての意識に向上がみられた。
学校関係者の意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 先生に対して半分近くの生徒があいさつをしないのは考えにくい。約9割の生徒があいさつを返してくれる実感があるのであれば、アンケート結果はひとつの結果ではあるが、実質はどうかで取り組んでいただきたい。</li> <li>・ 対先生のみならず生徒同士や外来者へのあいさつも評価できるのではないか。</li> <li>・ 1月上旬、教職員向けの性暴力被害対応マニュアルが各学校に配布された。性暴力被害は見えにくく気づかれにくいのが、生徒が安心して学校生活を送れるようマニュアルを活用してほしい。</li> </ul>				
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 生徒が主体的に時間や行動を自己管理する能力の育成。</li> <li>・ コミュニケーションを苦手とする生徒の自己肯定感の向上</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 健康的な行動への変容は、意識の向上ほどみられなかった（文化祭後 34.5%、研修会後 53.2%）。</li> <li>・ 心身の健康についての的確な理解と、行動の変容を促すための更なる取組が必要と考える。</li> </ul>		

重点項目	進路支援	
重点課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進路実現に向けて学校全体で支援する体制づくり</li> <li>・キャリア発達に応じた進路支援と、主体的な進路選択・自己実現の達成</li> </ul>	
現状	<ul style="list-style-type: none"> <li>・読解力や表現力等に苦手意識を持っている生徒が少なからずいる。</li> <li>・各年次における生徒状況が異なるため、それぞれに応じた指導が必要である。</li> <li>・もともとは進学希望であるが家庭の事情等で就職希望への変更を強いられる生徒がいる。</li> <li>・進路選択でミスマッチになる生徒がいる。</li> </ul>	
達成目標	①希望する進路の内定率の向上	②計画的・継続的なキャリア教育の実施
	進路決定率 90%以上	キャリアパスポートの活用調査
方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・面接指導や保護者会等をとおして生徒や保護者等に的確なアドバイスを行い進路選択のミスマッチをなくすように努める。</li> <li>・基礎学力向上講座、一般常識コンクール、模擬試験・実力テスト等を計画的に実施することで、基礎学力を定着させ学習到達度を測る。</li> <li>・奨学金制度等の案内をこまめに発信することで進学希望者を支援する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ホームルーム活動での指導に加え、進路ガイダンス、適性検査、進路講話等を計画的に行うことで、主体的に進路を選択する力を育成するとともに進路意識の高揚を図る。</li> <li>・キャリアパスポートでポートフォリオを蓄積する習慣をつけさせることで、自己の目標に向かっていくかを振り返りながらキャリア形成を図る。</li> </ul>
達成度	91.36% (R5.3現在)	60.62% (R5.3現在)
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・最後まで適度な緊張感をもって受験に臨み、進路希望を実現できるように指導している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・キャリアパスポートを活用することでキャリア形成の一助としている。</li> </ul>
評価	A 概ね順調に進路が決定した。	B 6割の生徒が活用できたと回答した。
学校関係者の意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新卒採用者の早期離職は社会全体の問題である。労働の流動化が世界的にも当たり前になりつつあるが経営側としては長い間勤めてほしいと思っている。学校では進路決定率をあげることが重要だと思うが、それ以上に就職した生徒の後追いをすることが大事である。</li> <li>・県が今年度秋に実施した中2、高2対象のヤングケアラー調査の結果によると、高校生では24人に1人の割合でヤングケアラーがいるとのことであった。家庭の事情で進学が叶わないのは残念である。奨学金制度の情報を提供するなど、生徒の夢が叶えられる支援をお願いしたい。</li> </ul>	
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進路を決めることができない(アルバイト継続で妥協してしまう場合を含む)生徒がいるのでしっかり進路決定をできるように指導する必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・キャリア形成に向け早く・的確に・現実的な進路選択ができるように指導する必要がある。</li> <li>・キャリアパスポートをもっと利用しやすいように編集する必要がある。</li> </ul>

評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:どちらかという達成できていない D:ほとんど達成できなかった

重点項目	特別活動											
重点課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校行事、ホームルーム活動等における生徒の積極的な参加の促進</li> <li>図書委員会活動の活性化と読書習慣の確立</li> </ul>											
現状	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒会活動や学校行事には、ほとんどの生徒が積極的に参加しており、また募金活動においても協力的である。</li> <li>コロナ禍のため、例年参加していたボランティア活動、保育園や障がい者施設での交流などはほとんど中止になり、参加できなかった。</li> <li>図書委員会では中央図書館での読み聞かせボランティア、文化祭での展示、図書館だよりの編集を行っているが、参加者が特定の生徒に偏っている。また、図書館を利用する生徒も限られ、読書習慣が確立しているとは言えない。</li> </ul>											
達成目標	①特別活動の企画や運営に積極的に関わった生徒の割合	②在籍生徒一人あたりの貸出冊数										
	80%以上	0.5冊以上										
方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒会を中心に、生徒の意見や要望を行事に積極的に取り入れ、参加意識を高める。</li> <li>事後アンケートを実施し、各行事に対する生徒の積極的な関わり度や問題点を把握する。</li> <li>積極的な関わり度が低かった生徒の声に耳を傾け、より多くの生徒が各行事に積極的に関わられるよう工夫する。</li> <li>コロナ禍に配慮をしながらボランティア活動等の参加を促す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>図書委員ミーティングを月1回開催し、生徒主体の研修を実施する。</li> <li>新着図書PRポスターやポップを制作し、図書委員を中心に読書意欲を喚起する。</li> <li>図書だよりの内容を充実させ、来館者の増加や読書意欲の喚起に努める。</li> <li>ホームルーム活動の時間等を利用して読書指導を行い、図書室の利用を図る。</li> <li>授業で学校図書館を利用することを通して、読書意欲を喚起し読書力を高める。</li> </ul>										
達成度	<table border="1"> <tr> <td></td> <td>満足度</td> </tr> <tr> <td>・校内生活体験発表大会（7月）</td> <td>97.2%</td> </tr> <tr> <td>・スポーツ大会（9月）</td> <td>97.4%</td> </tr> <tr> <td>・文化祭（11月）</td> <td>97.9%</td> </tr> <tr> <td>・百人一首カルタ大会（2月）</td> <td>94.5%</td> </tr> </table>		満足度	・校内生活体験発表大会（7月）	97.2%	・スポーツ大会（9月）	97.4%	・文化祭（11月）	97.9%	・百人一首カルタ大会（2月）	94.5%	在籍生徒一人あたりの貸出冊数 0.31冊
	満足度											
・校内生活体験発表大会（7月）	97.2%											
・スポーツ大会（9月）	97.4%											
・文化祭（11月）	97.9%											
・百人一首カルタ大会（2月）	94.5%											
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>各行事とも生徒会を中心に、できるだけ早く実施要項等を示して、行事参加への意識を高めた。</li> <li>ボランティア活動は昨年度よりも若干増えたが、コロナ禍前までは戻っていない。今年度もいちご募金は継続できた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>新任の先生方のお薦め本紹介を適宜作成し職員室前に掲示、宣伝した。</li> <li>文化祭時、図書委員のお薦め本紹介を企画、図書室で展示し、アピールした。</li> <li>図書だよりを隔月発行し、生徒への読書意欲の喚起に努めた。</li> </ul>										
評価	A <ul style="list-style-type: none"> <li>各行事の満足度は90%を超えており、目標は達成できた。</li> </ul>	C <ul style="list-style-type: none"> <li>毎日来館者はいるが、書籍を借りていく生徒はあまりいなかった。</li> </ul>										
学校関係者の意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>3年ぶりに開催した「日本海高岡なべ祭り」にボランティアとして参加してくれた生徒たちが積極的に活動してくれ、感謝している。活動の必要性を伝えた上で、生徒たちの自主性や主体性を大切にすることが良い結果として表れた。何のためにそうするのかを伝えることが大切で、活動目的が頭に入っていれば想定外のことが起きても対応できる。そのような対応力が社会に出てから必要である。</li> <li>スマートフォンでは得られない情報や人生を変える感動は本でしか得られない。そのような機会を作ってほしい。</li> <li>図書館だよりで書籍を紹介する際、書籍名の横にキーワードや興味をそそることを掲載してはどうか。</li> <li>ポップを使った本のアピールをしてみると良いのではないかな。</li> </ul>											
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>行事に対する出席率は70%台となっており、まだまだ各行事の魅力を伝え切れていないところがあると考えられる。今後さらに工夫をして、生徒達の自主性を引き出せるような行事の開催を目指して、しっかりと取り組んでいきたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>年間の貸出冊数が年を追うごとに減ってきている。新着図書PRや新入生オリエンテーションの内容を更に充実させ、生徒の読書意欲を喚起し、読書の魅力を伝えていきたい。</li> </ul>										

評価基準

A : 達成した

B : ほぼ達成した

C : どちらかというとな達成できていない

D : ほとんど達成できなかった

重点項目	専門教科学習活動の充実と、検定試験合格対策	
重点課題	<p>総合ビジネス科／情報ビジネス科</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>専門教科の学習指導の充実と学力の定着を図るため、各種検定試験に対して効果的な対策を行い、受験率と合格率の向上を目指す。</li> </ul> <p>生活文化科</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>主体的に学習に取り組む態度の育成や、生活産業に関連する基礎的な知識・技能の習得のため、被服、食物、保育、情報の各分野において各種検定試験に取り組み、合格を目指す。</li> </ul>	
現状	<p>総合ビジネス科／情報ビジネス科</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>過去3年間の検定合格率は60%前後で、特に3級の合格率が低下傾向である。</li> <li>令和3年度の全体合格率は52.6%、3級合格率62.6%であった。</li> </ul> <p>生活文化科</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>基礎学力が低く、生活に関する関心や問題意識が低い生徒がみられる。</li> <li>生活経験が少ないため、生活に必要な知識や技術が身につけていない生徒が多い。</li> </ul>	
達成目標	①総合ビジネス科／情報ビジネス科	②生活文化科
	各検定試験合格率が受験者の65%以上 および3級の合格率70%	各種検定受験者の合格率 家庭科系（被服・食物・保育）90%以上 商業科系70%以上
方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒個々の理解に応じた指導や教材の活用を通じて、基本的な学習内容を確実に定着させ、更に発展的な学習内容への関心と意欲を高める。</li> <li>関連する授業の充実に努め、学習効果の高い教材を活用し、家庭学習習慣の定着化を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒が取り組みやすい自主教材を工夫したり、過去問題等の事前学習などに取り組みせたりすることによって、各種検定への合格を目指す。</li> <li>各科目における体験的・実践的学習により、生活に対する関心を持たせるとともに、基礎的・基本的な知識と技術を習得させる。</li> </ul>
達成度	検定合格率 43.8% 3級合格率 54.4%	家庭科系合格率（被・食・保）98.5% 商業科系合格率 75.4%
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>実物投影機・タブレットなど ICT 機器の活用</li> <li>必要に応じた補講の実施</li> <li>タイピング大会など生徒に意欲を起こさせる企画の実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒の実態に即した教材の作成と活用 (ICT 問題集、取り組みやすい実習課題、キュウリのシート)</li> <li>実技の反復練習</li> <li>補講および個別指導の実施</li> <li>前期不合格者には後期での再受験を促す</li> </ul>
評価	C <ul style="list-style-type: none"> <li>実物投影機やタブレットの活用、ICT教材の作成や補講の実施などの様々な対策をしたが結果に結びつかなかった。</li> <li>日商簿記検定に合格するなど積極的に資格取得に取り組む生徒が増えつつある。</li> </ul>	A <ul style="list-style-type: none"> <li>家庭系：基礎的な知識技術の定着に苦戦する生徒もいたが90%を上回る合格率であった。一方で、学校に足が向かず受検自体が困難な生徒もいた。</li> <li>商業系：生徒の実態に応じた段階的な指導を行い合格率は70%を上回った。しかし、中には問題の意図が理解できない等の生徒もおり指導に苦慮した。</li> </ul>
学校関係者の意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>家庭系の検定で98.5%の合格率は素晴らしい。この合格率を保てるよう継続していただきたい。また、他科にも応用できることがあれば引き継いでいただきたい。</li> </ul>	
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>多様化する生徒に対してのきめ細かい指導の実施</li> <li>学習指導要領改訂に伴う新検定への対応について本年度の状況を踏まえての検討</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業や検定を安易に欠席する生徒への対応</li> <li>家庭系、商業系の別なく、個々の生徒の実態把握と実態に即した指導方法の工夫および個別対応</li> <li>生徒の苦手意識克服と意欲喚起の方策を検討</li> <li>次年度に向けた生徒の情報や検定の指導法に関する情報共有</li> </ul>